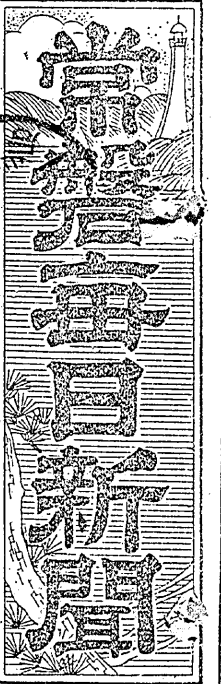


刊夕 日二月九



定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
電話 六二〇〇
印刷所 常磐宮日新聞印刷株式會社

成辰役の回顧

平陽 老人

一、濱街道の戦雲

六月十五日（明治元年）泉藩主本多能登守、使節半谷似之丞を矢吹の仙臺陣營に遣し、云はしめて曰く、正親町中將與羽追討として軍艦七隻を率ゐて將に東下せんとし、弊藩江戸在邸の家臣に教導を命ぜらる、願くは兵を派して弊藩の海岸を防禦せんことを諸將議して相馬以南の諸藩之が防禦に當るべきことを約す。

是より先西軍の平瀧に上陸せんとするの報あるや東軍仙臺兵一千餘人、米澤兵三中队及び純義隊、相馬兵棚倉兵二千餘人、泉湯長谷平等の兵之を援け兵を海岸に配す。茲に又徳川氏の遊撃隊長伊庭八郎、人見勝太郎、上総請西藩主林昌之助等徳川慶喜公の冤枉を慨き共に東海道を進みて京師に入り、以て哀訴せんことをし、期固根に於て西軍に遭ひ戦ひて利あらず遂に榎本武揚に依り、六月朔日全隊百十六人館山港より長崎丸に搭じ、翌日小名濱に上陸するや仙臺藩隊長山本丹後來り迎へて來意を問ひたるに一行曰く、海上貴藩の大艦に邂逅せしとき坂英之

氏に面し與羽同盟の義舉を聞き來り投するなりと、乃ち之を福島の軍事局に報告し其兵を合せて棚倉方面の軍を援けんことを請ひたるが、十六日西軍薩州兵十二

ノート

茶碗についた茶澁は鹽か灰でみがくとおちる

小隊、佐土原兵一小隊、岡山兵二小隊、柳川兵二小隊、大村兵若干、熊本兵一小隊は汽船三隻に分乘して愈々平瀧に着す、仙臺兵、平兵戦はずして走る、遊撃隊、林兵之を聞き、全軍亥の刻（午後十時）仁井田峠（石城郡錦村に在り國道より半里西に寄るも平町を距ること四里餘、本街第一の要衝なり）に到り、仙臺兵平兵の退却し來るに逢ふ、是に於て全軍を仁井田に集め相議して明朝平瀧進撃の策を決し、暫く兵を休め十七日拂曉に至り仙臺兵一小隊、泉兵半小隊、遊撃隊人見の兵林兵等を合し約の如く關田に進み西軍の勿來に在る者を撃つ、仙臺兵振はず人見勝太郎號令して疾驅して進

此の日棚倉藩の急使井口助次郎等矢吹に來り報じて曰く、薩長大村の軍艦三隻常州平瀧に來り其兵八百餘人上陸し奥州關田に向つて進行するの報あり、棚倉危し請ふ來り援けよと、是に於て山森一貫齋、木村兵庫士屋鐵之助、仙臺の將佐藤宮内及び相馬の兵赴き援け以て白河口の進艦に備ふ、此の時當り西軍白河城に據り防戦すること十數日、進んで會津に向はずとするも兵寡くして能はず今や西軍の軍艦平瀧に來り兵士を上陸し湯長谷、泉、平を攻略せんとするを聞き白河城の兵氣大に振ひ、先づ與みし易き敵を敗り然る後大敵に當るべしと乃ち棚倉城進撃の策を決せりと云ふ。

此の日報の急使井口助次郎等矢吹に來り報じて曰く、薩長大村の軍艦三隻常州平瀧に來り其兵八百餘人上陸し奥州關田に向つて進行するの報あり、棚倉危し請ふ來り援けよと、是に於て山森一貫齋、木村兵庫士屋鐵之助、仙臺の將佐藤宮内及び相馬の兵赴き援け以て白河口の進艦に備ふ、此の時當り西軍白河城に據り防戦すること十數日、進んで會津に向はずとするも兵寡くして能はず今や西軍の軍艦平瀧に來り兵士を上陸し湯長谷、泉、平を攻略せんとするを聞き白河城の兵氣大に振ひ、先づ與みし易き敵を敗り然る後大敵に當るべしと乃ち棚倉城進撃の策を決せりと云ふ。

【朝】ふくめ煮：いりくろ豆 砂糖 醬油 ふくめ
【晝】けんちん汁：こんにやく 人参 椎茸 やく 豆腐 ぐし豆腐
【晚】百煮：牛肉 はす

九月、四日、發西三碧先除く、利を得る日唯目下の不和釀す勿れ、三黒金苦爲目止と意見衝突を引起す事あれば和順以て吉、三碧運氣滯滞萬事凶事を招き頭痛の日なれば限き守るに吉、四緑望事奔走の用する日萬事進て吉利を得るの大吉日なり、五黄望事の爲に猛進して吉を凶に釀す勿れ東西凶、六白病氣怪我紛失盜難に注意して進む時は未に吉を得る、七赤深身のドン底に陥り助けを呼ぶ事あれば水火の難に注意、八白離別や死別の話しを聞く凶日なれば水火の難にも注意を要す、九紫改革の件起るも萬事進て吉病氣怪我に注意

三井タクシ

平町二丁目 電話五六八番

看護婦急派

の求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

玉屋洋品店

平町四丁目 電話五六六番

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町（電話一七〇番） 大和田醫院

吉田眼科病院

平南町、電話六八番

外科

専門線光 X 科

上田外科醫院 平町南町 電話一二九番

新 鮎節蟹

魚問屋

最優最大日本生命平代理店 志賀盛榮

平四丁目（電話一三二）

曾我第一校長退職

教育界に卅二年六ヶ月間

一般より惜まる

十一年六ヶ月の永きに渡り平第一小學校長として平教育會に多大の貢献ある曾我直治氏は今回

退職の意を決し昨日付を以つてその辭令に接した、同氏は東白河郡棚倉町に生れて本籍を白河町宇日影十七番地に置くが左記略歴の如く廿一歳の時身を教育界に投じてより本年五十四歳に至る星霜卅二年六ヶ月間殆んど半生以上に亘つて身を

教育界に 献げ本縣斯界の元老として重きを爲し人格識見共に優れた模範的の教育家として今回の退職を一般から非常に惜まれ寝

耳に水の青沼町長も『本町教育會の爲め實に惜しむべきで何人が後任となるか仲々』
同君以上の人を求めらる事は至難であらうと語つて居た
明治三十四年三月本縣師範學校卒業東白河郡棚倉尋高訓導、同四十一年三月東白河郡高成尋高訓導兼校長、大正五年七月北會津郡視學、同八年一月

耶麻郡視學、同十年三月石城郡視學、同十一年十月平第一小學校長、昭和二年十一月勲八等に叙せられ瑞寶章を授與さる、同三年四月奏任官待遇となる、同年六月從七位に叙せらる、同七年三月勲七等に叙せられ瑞寶章を授與さる、同八年一月高等官六等を以つて待遇せられ正七位に叙せらる

思へば感慨無量

當分平町で靜養すると
曾我校長が語る

退職した曾我校長は言葉短かに左の如く語つた
『未だ辭令は握らないが愈退職となつて見れば感慨無量』

滿鮮から一筆

(八)

釜山公會堂にて 伊東 一

錦洲は滿洲でも一番ほこりつばい所と云ふ、熱河には沙漠があり寒暑共に烈しく日本人には適さぬ土地らしい、第一米が取れぬと云つて居た、この邊鹽の高位には驚いた砂糖と同じ位の値段十錢買つても一握りしかない砂糖と云へば大連で買つた時は日本の

三倍も安い水砂糖等二十錢も買ふと大きな袋に一杯ある、滿洲は總じて奥地に行く程食糧品が高い様だ、青物だつて高いには驚く、内地の百姓が滿洲へ來て農業をやつても生活程度や何やかやで支那人には到底對抗出來ぬと云ふが内地人が野菜を造つて採算の

取れぬ事はないと或る人は云つて居つた、勿論安い畑を借りて出來た野菜を内地より高く賣れば採算の取れぬ事はないと思ふが第一寒い時には何を造るかこれを考へねばなるまい懇意になつた蘇家屯の巡査が云つた内地へ歸つたら、内地人來ない様に話して貰ひ度い、今年の暮あたり隨分困る人が出來るだらうと話は亦大分それたが奉山線で奉天へ行く立派な近代的大市街だ、是れが三十年

家並は美しく大家高樓櫺比して居り道路もよい元清朝の舊居三百の大名を集めて居つたと云ふ處其建築は別に大きいと云ふ程でもないが美しい庭に黄色い死のある破風造りに御殿の如き建物だ、ついでに北凌を見て來た、奉天から一里計り北に連る日本の日光の

樹木が少くない分けても老松等誠に珍らしいので一寸日本内地の風景を思ひ出させる、奉天の舊居と同じ建築や瓦だ、此の瓦が内地では北凌の瓦と云つて珍重されると云ふ正面の門等は天井の裝飾がヒスイの板で飾つてあつて大したもの

欣淨寺の總代、本町材木町欣淨寺檀徒總代は今

平第一及び第二兩小學校では來る二十三日の秋季皇靈祭に際し物故せる恩師並に學友の墓參をなすと

突然の退職に

平教育會一脈の淋しき

居る

曾我校長に

記念品贈呈

曾我平第一校長辭任による緊急郡下小學校長役員會は本日午後一時より平第一小學校會議室に開かれ曾我校長への記念品贈呈の件其他を協議した

兒童競技打合

既報今日下旬磐中グラウンドに於て開催される第三區小學校

兒童競技會の委員會は來る九日午前十時より平第一校に於て開かれ大會當日の組合せルル其他種々協議すると

平年よりも

稻成育良好

農事試験分場が

昨日調査の結果

石城郡神谷村縣立農事試験分場で昨日の郡内稻作調査に依ると早生は莖丈四尺二寸九分、莖數十四本、中生が四尺一寸五分十六本、晩生が四尺五分十五本で平年作に比較すると草丈で三分三厘莖數が一本と何れも増加した是れは大暑以來氣温高く雨量も適當であつた爲めで出穂期も平年よりは早生が七日中生が五日晩生が七日夫々早く出穂を見た

本縣最初の

製氷工場を建設

江名漁業組合に奨励金交付

石城郡江名漁業組合では本縣最初の組合經營製氷工場を工費五萬六千圓にて建設する爲め豫てより奨励金の指令に接したと

繭賣上四萬七千圓

昨日迄の四倉繭市場

四倉繭市場昨日の取引は貫數千五百一貫にて最高四圓五十錢、最低二十圓、十圓三十七圓八十錢、三十八圓と引續いて相場下り氣味であるが昨日迄の總取引貫數は一萬二千五百三十八貫九百二十分、賣上高四萬七千五百九十八圓六十八錢に達した

恩師展墓

教へ子達が

平第一及び第二兩小學校では來る二十三日の秋季皇靈祭に際し物故せる恩師並に學友の墓參をなすと

踊れ若者

盆の安息日に

平和な笛太鼓に
賑々しい三日間

平地方は今晩各戸が墓参して佛を迎へ愈よ明夜から三日間盆焚火が天を焦がすのを合圖にジャンガラ念佛や盆踊りが賑やかな繪巻物を繰り換へ、白銀青年は驛前に、南町青年は大町に夫々櫓を建て平和な笛太鼓の音が夜更け迄續く炭礦も活況を呈し田の實りもよから本年は一年一度若者達の此の安息日が例年に増して殷盛を極め従つて市内の雑踏も甚しいであらうと平署は消防組と協力終夜取締り警戒に努める由

腐敗果實が

傳染病の原因

販賣者を假借なく告發

統計的に見て傳染病は秋口が最も多いので平警察署では目下チナス其他傳染病の豫防に懸命となつてゐるが傳染病的の直接原因となる果實の取締りについてはことの外頭を悩まし少くも腐敗果實等を販賣したものに對しては假借なく告發の方針を執つて居る

乃木將軍の嗜れた

栗飯を生徒に馳走

平第二校の乃木祭

平第二小學校では来る十三日の乃木祭に當つて午前十時から講堂に祭壇を設け乃木將軍並に同婦人の寫眞を飾り學藝會を催すが當日は乃木將軍が常に嗜まれたといふ栗飯を生徒等に試食させ將軍を偲ぶ事とする由

神谷青年協議 石城郡神谷村青年團の各分團長會議は来る十五日午後二時より小學校に開會役員の改選及び秋期修養會等を協議する

桑園整理

改植の講習

平蠶業取締支所では郡下各町村の桑園整理及び改植事業の普及を計る爲め指導員及び技術員を同所に招集して講習を行ふと

師團長の宮

平驛御通過

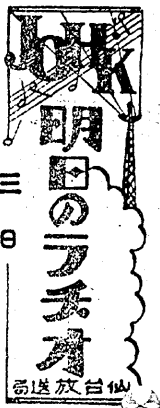
二師團長として本縣を御視察後の東久邇宮裕彦王殿下は其後一先づ御歸京中の處明三日午後十時半上野驛發常磐線經由列車にて仙臺に向はせられ平驛は四日午前

小沼村議選舉違反

けふ略式で罰金處分

平檢事局にては去る六月七日執行された箕輪村々會議員選舉に際し當選した小沼末造氏を始め十餘名を選擧違反として召喚清田檢事係りの下に調べ中であつたが本日左の如く略式命令に處した

罰金白圓	小沼 末造
同七十圓	高萩 國太
同六十圓	吉田喜一郎
同五十圓	高萩 依宣
同三十圓	小沼 延伊
同二十圓	大和田忠治
	小沼才太郎
	折笠 竹治



明日の天気
今夜も明日も南東の風晴曇半す

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
管絃樂 東京ラヂオオーケストラ
後六、二五 傳説と史蹟を
探ねて(十七)「國上山の史蹟と傳説」村島清雄
後七、三〇 講演 法學博士津村秀松
後八、〇〇 浪花節「小猿七之助」東家樂遊
後八、三〇 歌謡曲 吉田

明日の部

後八、五〇 名作物語「我輩は猫である」徳川夢声
後九、三〇 時報 ニュー
氣象通報 番組豫告

二時五十分には御通過あらせられると

好問果樹講習

郡好問村果樹實行組合では来る十日午前九時より同村小學校で移出果樹の荷造講習會を催すと

判事一名増員で

三橋辯護士が來任

平區裁判所では判事を一名を増員する事となり大分市唐人町に辯護士事務所を開設中であつた三橋秀太氏が來任すると

飯野八幡任命

平町縣社飯野八幡神社司は飯野談衛氏が昨年病死後欠員の儘であつたが昨日付を以つて飯野盛男氏に任命された

裁判所だより

△石城郡夏井村大字菅波字宮前二七自動車運轉手星義勝(七)は去月二十九日茨城縣那珂郡湊町に於て特定外の貨物自動車運轉し自動車取締令違反として料科十

常設館だより

△平館 トーキョー漫畫「蛙のボーイさん」日活時代劇片岡千恵藏 月形龍之助 南光明主演「堀田隼人」日活現代劇全聲聲木傳明 山本嘉一 杉狂兒 夏川靜江 市川春代

社告

来る四五兩日は舊盆祭に相當致し候間例年通從業員慰安の爲め休刊仕候
尚ほ突發事件等は直ちに号外を以つて速報可仕候
昭和八年九月二日
常磐毎日新聞社

平町人事

回出生
△鎌田一四 渡邊清一郎氏
△鎌田一四 渡邊清一郎氏
△鎌田一四 渡邊清一郎氏
△鎌田一四 渡邊清一郎氏
△鎌田一四 渡邊清一郎氏
△鎌田一四 渡邊清一郎氏
△鎌田一四 渡邊清一郎氏
△鎌田一四 渡邊清一郎氏
△鎌田一四 渡邊清一郎氏
△鎌田一四 渡邊清一郎氏

のコンポジション練習 (六日)色彩のシユバンスクの練習 立体的コン

ポジション練習 批評及結論

主演「戯れに戀はずまじ」
△世界館 新興時代劇市川玉太郎 望月禮子主演
「長恨鮮血録」新興時代坂本妻三郎主演「新門辰五郎」入江プロ作品入江たか子 岡田時彦主演「須磨の仇浪」

子 伴奏アルメリ重奏團
前二、五〇 哥澤 芝都重
芝都實
後三、〇〇 世界民話しらべ(第五回)手山充 内木實 上田仁
後六、〇〇 子供の時間
童話劇「私は電波です」大阪科學童話劇協會
後六、二五 趣味講座「女性と民間傳承」佐々木喜善
後七、三〇 舊盆の夕唄 永井錦水外
後七、五五 箏曲
後八、二五 長唄 唄芳村伊四郎外 三味線軒屋和吉外
後八、五〇 名作物語(二)「吾輩は猫である」徳川夢聲



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第三十二回 血に飢ゆる村正

涙片手の物語

源「オイ一寸待つて呉んな命を呉れとは驚いた、三年経つたら俺の生贖を何處か神様にでも奉納しやうといふ約束でもしたのかえ」

み「そんな白痴な約束はいたしません、只命を頂きたいと申したから、嗚御驚きでござませうが、實は父の仇討をしたいと思ひます、女の事で力たらず、イザといふ時には男子でなければ役に立つまいと存じまして」

源「へー、夫じやアお前のお父さんの敵討をする、夫に就いて私のやうな者でも、一旦夫婦になつたから助太刀をして貰ひたいと云ふんだな、假令些かの扶持を頂戴して居ても大小を帯挾む者は、外の事と違つて敵討の助太刀を頼まれて、夫が出来ないと決して断る譯には行かん、殊に夫婦の間柄、敵と云ふは何者だ」

み「手前の父は郷土でございまして、地方三千石を持つて居りました、才賀文太夫と申します舎弟がありましたが、是は幼年にして病死いたしました」



源「ウム、今までは約束ゆゑに聞かなんたが、みお

源「成程」

源「成程」

大したものだ、其敵といふは、敵と申しますのは父が武藝を好みまして、始終浪人武藝者の三人や五人入替り立替り手前の宅に居りましてございませう

した、夫を父が或時見せた、そのでございませう、是は正直の正宗だ、郷土の家にも此位の物はあると話をいたしました、それとて大方其の正宗の刀が欲しくなつたものと見え、其後十日程経ちましてから、碁を圍んで居りまして、些かなる事で三三口論をいたした末、其余之進と申す者が父を殺して金子二百五十兩と、拵へ附正宗の一刀を奪つて、其儘行方を知れず逃げ去りました

した金子等を遣はし、其中に私も追々に成長、又助には仇討の話をする譯にもなりませぬ、此の上は神佛の加護を以つて其余之進を討うと信心怠りなく、只々時の來るのを待つて居ります中に、御縁あつて貴郎の處へ参りましたが、明日が日にも其の木本条之進に面會を致しますれば、討たねばならぬ親の仇、其時には何うか助太刀をして下さるやうお願い申したう存じます

源「ハア」

と涙と共に妻のおみちが身の上話に、源十郎は酔うたる酒も醒めるばかり、暫らく考へて居りましたか

美味！ 芳醇！ 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇〇番



旭硝子株式會社製品
赤菱印 板ガラス

製造賣販
硝子 壺
硝子 食器
其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

專門
産婦人科
花柳病科

◎入院隨意

井坂醫院

平町田町 電話五五九番

貸切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ.....(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

全外科 醫學博士 渡部 義夫
小兒科 女 醫 渡部 きい子
内科

入院應需 渡部 外科

平町田町大通リ(電話二七七番)